

## 第二講 人は何故過去を記憶し、記録しようとするのか？

レポートへの導入：アッピア街道沿いの富裕な解放奴隷の墓と墓碑  
忘却への恐怖と永遠への願望、そして参加への証

### 【本日のレポート】

人は過去を記憶し、記録することによって何を求めているのか？

### 記憶と歴史

記憶と歴史は相反するのか？

歴史とは：・人間の営為を記録し後世に伝える（ヘロドトス）

偉大な業績が忘れ去られていくことから救うため

忘却（自然）に抗して記憶（人為）しようとする意志

永遠に対する挑戦

記録・記憶に残すという行為

意図して残すもの：日記・切り抜きファイルなど

意図せずして残ってしまうもの：携帯の着信記録など

### 記憶の問題

・記録される記憶の場の問題

どこに記憶されるのか？

何に記憶されるのか？

円山公園の「新聞少年の像」・「ラジオ塔」・「坂本竜馬と中岡慎太郎像」

記憶が象徴するもの

昭和という時代を象徴：経済恐慌・戦時体制・戦後復興と  
民主化・所得倍増・三種の神器（テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫）

貧困と苦学・立身出世・近代化・国民動員・革新性への願望

記憶の統合機能

共有される記憶は同じ価値観を共有する集団を形成し、  
人々を統合する（ファンクラブ・野球場・同窓会など）  
民族という集団に共有される「集合的記憶」

P・ノラ（1931年～）

ピエール・ノラ編（谷川稔監訳）『記憶の場』（岩波書店：2002-03年）

移民の流入によるフランス人の文化的アイデンティティ喪失の危機

フランス国民の「集合的記憶」

ウェルキングトリクス・フリジア帽など

多民族・多文化社会（移民社会）への批判

グローバル化への批判

記憶と歴史の関係

国民的アイデンティティへの統合を目指す

ブルカ禁止

単なる記録・記憶は歴史になるのか？

・Historizein(探求する)→History（歴史）

何故、ペルシア戦争が起きたのか。

直接的にはイオニアの反乱にアテナイとエレトリアが援軍を派遣したこと。

原因を探求。「何故」という好奇心。

ソフォクレスの『オイディプス王』と共通

イオニア哲学の産物（神話を批判）

参考文献

ヘロドトス（松平千秋 訳）『歴史 上・中・下』岩波文庫、2007年。